

# YKKAP非溶接工法



5階建てと3階建ての2棟で構成する独身寮は総延べ約6800平方メートル。4月末の完成に向け、工事は順調に進む。居室部分でサッシの取り付けを行うフィールド工業の長谷川猛さんは「馴れば誰がやっても、うまく固定できてしまつ」と、非溶接工法の樹脂剤注入機を指差して苦笑いする。

通常は、躯体に埋め込んだアンカーと、サッシ枠組みに取り付けたアンカーを溶接作業によって固定する。つなぎ材に鉄筋を使うため、溶接時にサッシの位置が微妙にズレたり、枠組みが反ってしまう恐れもあり、作業員には熟練の技が求められる。



専用アンカー内に樹脂剤を注入するだけ



溶接では反りを抑える技が求められる

溶接では反りを抑える技が求められる。現場では壁下の軽量鉄骨(LGS)にも非溶接の試みを採用する徹底ぶりだ。サッシの取り付けでは、全体の7割を占める約200カ所を非溶接で対応することにした。

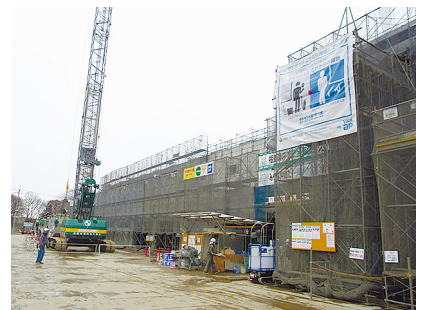
YKKAPの非溶接工法は、高強度の樹脂剤を使ってサッシを固定する。躯体側に打ち込んだ打釘(だびょう)と、サッシ枠組みに取り付けた専用アンカーを合わせ、その中に樹脂剤を注入するだけの手軽さだ。樹脂剤は補強筋や手摺りボルトなどの接着アンカー用として市販されており、冬場でも注入後1時間程度で硬化する。

鹿島・青木あすなる建設JVが栃木県小山市で施工中のコマツ小山グリーンタウン独身寮新築工事。「現場で火(溶接)を使うか、使わないかの違いは大きい」と強調する松井友紀所長は、常に火災リスクへの対応を心掛けている。この現場で試みるのが、アルミサッシを躯体に固定する際の非溶接化だ。YKKAPが開発した工法を全面的に取り入れた。

## サッシ固定に樹脂注入



## 火災リスクなくし健康配慮 鹿島関東支店に改善事例候補に



施工者の鹿島JVは壁下の軽量鉄骨も非溶接を採用した

部PJ系ウィンドウCW商品室室長の宇田川敏規氏は「2011年1月の営業開始から着実に増えているが、まだ全体の1割にも満たない状況。13年度末までには2割程度まで引き上げたい」と意欲的だ。ネックになっているのはコストだ。非溶接工法の利点を実感している松井所長も「他の現場で使うには、溶接と同じコストで提供してもらえないかがポイント」と本音を語る。作業性を考慮した場合には「環境によって違いが生じる樹脂剤注入後の硬化時間を厳密に明確化してほしい」とも注文をつける。



コマツ小山グリーンタウン独身寮新築工事は4月に1期工事が完成する

